

Faculty Café（特別版）実施報告

2016/08 報告者 大学総合研究センター職員（川合・松本）

＜Faculty Café（特別版）＞

日時：2016 年 8 月 4 日（木）16 時～16 時 30 分

場所：19 号館 共創館

講師：David Goldstein 先生、Sharon McCarty 先生（アメリカ ワシントン大学教員）

テーマ：UW におけるクリッカーの事例紹介とその有用性の紹介

実施概要

ワシントン大学から David Goldstein 先生と Sharon McCarty 先生を招いて、ワシントン大学におけるクリッカーの使用事例を三点紹介して頂きました。一点目は、全ての学生が人前で発言することは得意とする訳ではないので、クリッカーを利用することで、講師がクラスに問いかけた質問に匿名で回答することが可能となる利点がある事、二点目は、匿名性によって正直な回答を学生から引き出せる事、三点目は、授業が理解できたかどうか項目ごとにすぐに回答が得られるので、学生の知識の理解度が瞬時に把握できる事です。またアクティブラーニングを通じた方が、学生はより多くの事を学ぶという事や、学生が予め学習してきた内容に基づいて学んだ方がより効果的だという事も紹介頂きました。

その後、森田大学総合研究センター副所長より早稲田大学でのクリッカーに相当する「わせボチ」を実際に使用しながら使用事例を紹介頂きました。

また、文学学術院の印准教授より 2016 年 FD 冬のプログラムに参加を経て、自分の授業でアクティブラーニングを実践したら、学生が自発的に学習するようになった事を報告頂きました。また、自分の授業の質を向上させるためにどのような工夫をしたらよいのかを Faculty Cafe に参加された教員に相談され、それぞれの教員間で意見交換を行いました。

今回の Faculty Cafe では、教員同士の活発な意見交換があっただけでなく、印准教授の授業への授業見学の申し込みがあるなど、参加された教員の方々のアクティブラーニングに対する関心の高さを感じた会でもありました。

会終了後には、「森の風」にてワシントン大学の両先生の送別会を兼ねて懇親会を実施しました。

